

鷹田多喜雄氏の「国語科教育方法論」の考察（その4）

—足形象理会・読方教育の実感機構論について—

お茶の水女子大学附属中学校 花田 修一

柿氏童記こわ、じ業
工田児大、終能行授
陶飛のし心を機にう
「、組業苦備の様い
てはら授の準み何と
し成年間作の説如」
と実5日創祝、「にい
上の、3る解は童左
開こにう在品氏児が
展。代か実作田の過。
のる時日真る飛期にる
みいの22のなうの証い
説て導月門分いこ奥て
られ訓11衡充とのし
きや校年右く」が、つ懐
生述序)柿べだ階一述
に詳小9工むん段のを
象が等昭陶し臨のそと
事例高(「せに証う価
室事常4。会室自い評
理版訓序つめは、己る語とれべので能とは、実市でか次証くの
・44時でくれ私使対力私思困フ、五た教」尋3る理教証と業
会・導文てう「のがた、三は、し「賤川あらの、が授
象5校の上潛氏。い國践う述城表機とにの県、部文一自行そ
理版訓序つめは、己る語とれべので能とは、実市でか次証くの
形A字書りが田いて、実えと領飛的ここ門葉象一全第、てと
・小本盛実飛なつめと与」お本行るこ衡斗対のをて観れ説
月蹊が眞れ知し索による的 カゲ 右がを錄れ直ら仮

この授業の発展をどのように工夫されられておられるか。

子無意様技術のりうのの
こ限神童導のはを見指
前と述の眼、論時態。
うになされているか。
うに。鍊采考のる。
うい鍊出本て導は
よたのがお得指て
のえ力導をを、え
ど加ふ指、会程考
はを読取が機過と
価察の解るうのい
許考童のい伺導た
や、児味てを指し
察し、意へ詰（取
観討しつ述接法）
業檢く育と直方も
授うかの」にのて
かのか、「かだ、氏業い
る師点は「つ田授つ
い教觀氏育あ飛、に
ての田にで、応」
③ど飛何びう反ど
な如喜かやな